

全商商業検定 1 級 3 種目以上全員合格への取り組み

岐阜県立海津北高等学校教諭 三田 裕之

1. はじめに

本校は岐阜県の南西に位置し、揖斐川と長良川に挟まれた海拔0～3mの輪中地帯にある。

情報処理科と生活福祉科を併設する専門高校であり、校訓には「浩気拙誠」という言葉を掲げ、教育活動にあたっている。

情報処理科では、特に、はじめにこつこつ取り組むことを大切にしている指導を続けている。

2. 本校の沿革

昭和 24 年 岐阜県立海津高等学校今尾分校開校 (昼間定時制普通科)

昭和 39 年 昼間定時制普通科を廃止 家庭科に改められる

昭和 42 年 昼間定時制生徒募集停止 全日制課程岐阜県立海津高等学校家政科となる

昭和 58 年 岐阜県立海津高等学校家政科は分離独立し岐阜県立海津北高等学校となる
設置学科は家政科・経理家庭科

昭和 61 年 情報処理科が設置される

平成 14 年 家政科・経理家庭科を統合し生活福祉科が設置される

創立 20 周年記念式典を挙行

3. 在籍生徒数

平成 16 年 8 月 31 日現在

	1 年	2 年	3 年	学科合計
生活福祉科	80	77	76	233
情報処理科	33	30	35	98
学年合計	113	107	111	331

4. 情報処理科の実践目標

(1) 教科の目標

商業の各分野に関する基礎・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、経済社会の発展に寄与する

態度を育てる。

(2) 学科の目標

ビジネスの諸活動に必要な専門的な知識・技術、コミュニケーション能力と水準の高い情報活用能力を育成する。

(3) 各学年の目標

- ① **第 1 学年** ビジネスに関する基本的な知識・技術の習得と基礎的な情報リテラシーを育成する。
- ② **第 2 学年** ビジネスに関する専門的な知識・技術の習得とプログラム作成能力やコンピュータに関する応用能力を育成する。
- ③ **第 3 学年** 習得したビジネスに関する専門的な知識・技術を活かした情報活用能力を育成する。

(4) 情報処理科の資格取得目標

	1 年	2 年	3 年
情報処理	全商 2 級 (プログラミング部門)	全商 1 級 (プログラミング部門)	経済産業省 基本情報
「情報処理」 (1・2 年)	全商 1 級 (プログラミング部門)	経済産業省 基本情報	経済産業省 ソフトウェア 開発
「プログラミング」 (1・2 年)		全商 2 級 (ビジネス情報部門)	全商 1 級 (ビジネス情報部門)
「ビジネス情報」 (1・2 年)			
簿記	全商 2 級	全商 1 級 (会計)	日商 2 級
「簿記」(1 年)	日商 2 級	(原価計算)	
「会計」(2 年)		日商 2 級	
「原価計算」(2 年)			
珠算・電卓	全商 3 級 (珠算)	全商 2 級 (珠算)	全商 1 級 (珠算) (電卓)
「商業技術」(1 年)			
ワープロ		全商 3 級	全商 1 級
「商業技術」(1 年)		全商 2 級	
英語	全商 3 級	全商 2 級	全商 1 級
(英語)	実用英語 3 級	実用英語 準 2 級	実用英語 準 2 級、2 級
商業経済		全商 2 級	全商 1 級
「ビジネス基礎」 (1 年)			
「商業法規」 (3 年選択)			

5. タイピングと珠算…習うより慣れよ

本校情報処理科では、昼休みの15分間をタイプ練習にあてている。1年次は電算室にてタッチメソッドの基本から始まってアルファベットの練習をさせるが、特に入学してしばらくは授業担当者のみならず、情報処理科の教師が皆で指導に入り基礎を徹底させる。基本姿勢に始まって、正しいキー入力ができているかどうかを見るようにしている。各学年とも1クラスで、目が行き届きやすい。

1年次終わり頃から2年次にかけて、日本語入力に切り替え、OA機器室にてワープロ入力の練習をさせる。時間帯をずらして3年次にもこれを取り入れている。

もう一つ特徴的なことは、帰りのSHRに15分間のそろばん練習をさせていることである。入学当初は、商業技術の授業で、運指・運珠を指導し、この時間にドリルをさせるという形態をとっている。しだいに慣れてくれば、普通計算をどんどん練習させていくという形である。

毎日の練習が、珠算技能の熟達に結びついていくのはもちろんであるが、珠をこつこつと弾く時間が集中力を生み出している効果は大きいと思われる。この方法は、軌道に乗せると教師の負担もそれほどなく長続きする。本校情報処理科では実際に15年以上にわたってこのスタイルを継続し、成果を上げている。

もちろん、珠算については入学時から習熟度に関きがある。1級レベルまで到達した生徒には、電卓のタッチメソッドを練習させ、計算練習を重ねさせることになる。半年から1年もすると、1級レベルまで到達してくる。

タイプ練習と珠算・電卓は、毎日続けることによって大きな成果を生むが、入学後、集中的に取り組む姿勢や態度を、学科の教師で繰り返し指導している。これは、学習全般にわたって、こつこつ取り組む姿勢が最重要であると考えているからである。

6. 全商検定に対する取り組み

(1) 珠算・電卓検定

珠算については、1年次の計算事務（現在では商業技術）の授業の中で、珠算の基本とビジネス計算の分野を理解させ、あとは毎日の練習を習慣づけていくことに徹する。1年次3級、2年次2級、3年

次1級を目安とする。2年次もしくは3年次の6月に珠算1級に合格した生徒は電卓1級を目指して練習をさせる。

(2) ワープロ検定

昼休みのタイプ練習を繰り返すことで、入力速度が次第に速くなり、遅い生徒でも2年次に2級、3年次に1級合格が可能になる。文書作成対策は一時期に集中して行い、筆記試験対策は家庭学習を中心に行う。

(3) 情報処理検定

1年次に2級を取得させるが、興味・関心が強い生徒や、学習の進んだ生徒には1級取得も目指させる。COBOLのプログラムをできるだけ多く通させることで、幾種類ものエラーをデバッグしながらプログラミングの力を養えるように努めている。

検定対策は、秋口から受験級に応じた分割授業を行っていき、生徒に合格の力をつけさせるようにしている。1年次に1級を取得した生徒には、2年次より情報処理技術者試験の受験に向かわせていく。

(4) 簿記検定

1年次に2級合格を原則とするが、進捗度や生徒の興味関心によって補充を行いながら、会計まで進むこともある。さらに、意欲旺盛な生徒は、原価計算の学習も行い、工業簿記1級合格も手にしていく。それにはかなりの自学自習を強いられるのだが、自ら欲して学習する生徒がでてくる。原則的には、2年次には会計と工業簿記をほとんどの生徒が取得するという形である。

(5) コンピュータ利用技術検定

2年次2月頃から取り組ませ、3年次の9月に合格につなげられるようにしている。授業では教師はポイントを説明し、あとは生徒がテキストに沿って実習していく形をとる。生徒の理解・進捗状況に応じて教師がアドバイスをして対応している。もちろん検定前には、模擬検定を繰り返す行う。

(6) 商業経済検定

2年次から1級を目指して取り組ませる。マーケティング・商業経済・商業法規・経営の中では、商業法規は3年次に選択履修できることになっているが、その他の科目は開設していない。必然的に自学自習によらざるを得ない。日々の取り組みが習慣になってくると、自ら学んでいこうとする姿勢ができてくる。資料や参考文献の提示は行いが、あとは生徒たちの学習意欲が支えている。

この検定は2月に実施されるので、3年次に受験をする生徒にとっては、卒業を前にした最後の検定である。にもかかわらず意欲を失わず、なかには高熱があっても出てきて受験したいと申し出る生徒がいるほどである。

(7) 英語検定

英語科の先生のバックアップが大きい。この検定の趣旨や内容を理解していただいた上で、授業でも取り扱っていただく。英語が大切だという気持ちがあれば、取り組みも意欲的になる。ホームルームでは英単語帳を購入させて、定期的に単語テストを行うなどして、学習を継続させるようにしている。1年次3級、2年次2級までは比較的順調に進むが、3年次の1級合格は容易ではなく、数名の合格にとどまり、本校生徒にとっては最も合格するのが難しい検定になっている。

(注：検定試験の名称等は平成15年度実施時のもの)

7. 遅進生徒に対する指導

あらゆる検定試験についていえることだが、資格取得に向けた学習は、すべての生徒にとって一様に進むわけではない。授業時間内での説明では不十分な場合も出てくる。

遅進生徒には、必ず放課後や早朝などを使って個別指導をする。本人の学習不足で理解ができていない場合には、わざわざ部活動終了後に補習を組んで、遅い時間まで勉強させることもある。学科の教師は連携して指導を行い、助手の先生も生徒のフォローに回って、遅進生徒を支えている面も大きい。

8. 全商業検定1級3種目以上合格、全員が達成

入学当初からできるだけ多くの資格取得を目指そ

うとわれわれは呼びかけるが、実際に生徒たちが明確に意識したのは、1年次にクラスで3種目合格を果たす生徒が出てくる頃である。これが他の生徒への刺激になって、ぜひとも3種目は取ろうというムードが出てくる。

中だるみの2学年を乗り越切り3学年ともなると、とにかく1種目でも多く資格を得ようとする姿勢がはっきりしてきて、なかには全種目制覇を目標にする生徒も出てくる。そして、3名はそれを見事に成し遂げた。

3種目以上合格した生徒が大半になると、まだ3種目に至っていない生徒は、自分だけ取りこぼすわけにはいかないという、お尻に火がついた状態になるようだ。就職が決まり、進学が決まり、卒業まで1か月と迫っても、資格取得を諦める気配はなく、卒業前の2月の検定で3種目合格を達成した生徒もいた。

8種目すべてに合格した生徒はもちろん満足気であったが、悲願の3種目合格を達した生徒たちは、また格別うれしそうであった。平坦ではなかった道のりを歩ききったかのような喜びと自信を感じていたのではないだろうか。

9. 情報処理科の資格取得状況

資格・検定等	平成13年度	平成14年度	平成15年度
経済産業省主催基本情報技術者試験	6	4	3
日本商工会議所主催簿記検定2級	22	21	14
全国商業高等学校協会主催検定8種目1級合格	4		3
全国商業高等学校協会主催検定7種目1級合格	4	4	6
卒業生の1級3種目以上合格者割合	97%	86%	100%



平成15年度全商業検定1級3種目以上合格者内訳

8種目合格	3人
7種目合格	6人
6種目合格	9人
5種目合格	8人
4種目合格	4人
3種目合格	5人
合計	35人

10. 「卒業生が語る会」の実施

情報処理科1～3年すべての生徒に対して、卒業生が学習方法や受験を乗り切る方法などについて体験談を語る「浩気会」と名づけた会を、毎年5月に実施している。

多くの資格取得を勝ち取ったり難関校に合格した先輩が語る言葉は、身近で説得力があり、教師が話すのとは違った影響力がある。聞く生徒は実に真剣である。

この会をきっかけに、受験の相談を持ちかけて先輩にアドバイスを求める生徒も出てくる。縦の関係で協力が得られることも大きな意味がある。

この会が情報処理科の3学年3クラスのみで開かれることにより、学習の仕方や資格取得の意味、進学対策のたて方など、学科特有のものが明確になり現実感をもって捉えられることが、生徒のモチベーションを高めることにつながるのではないかと考える。これが、受験や部活動での頑張りに与えている影響は大きいものがあると思われる。

11. 情報処理科の進路状況

(1) 情報処理科の就職状況

	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度
製造	4	2	1	4
運輸・通信	1			
卸・小売	2	1	3	1
金融	3	2	1	
サービス	4		2	2
公務				1
合計	14	5	7	8

(2) 情報処理科の進学合格状況

学校名	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度
●国公立四大				
滋賀大学	2		1	1
岐阜大学				1
弘前大学		1		
福島大学		1		
岩手県立大学		1		
尾道大学		1		

●私立四大

関西大学		1		
京都産業大学		2		1
神戸学院大学		1		
立教大学			1	
愛知学院大学	4	3	2	
愛知大学	1	2	2	1
愛知工業大学	2			
椋山女学園大学			1	
中京大学	9	10	6	5
大同工業大学				2
名古屋学芸大学				1
名古屋経済大学	1	2	1	1
名古屋文理大学	1			
名古屋商科大学	3	9	6	2
南山大学				1
名城大学	1	2	2	1
岐阜経済大学	1	4	1	
朝日大学		1	1	

●公立短大

岐阜市立女子短期大学	1	1		
三重短期大学				2

●私立短大

愛知女子短期大学			1	
愛知文教女子短期大学			1	
名古屋経営短期大学	1			2
岐阜聖徳学園大学		1		
大垣女子短期大学			2	

12. おわりに

海津北高等学校の情報処理科が今日あるのは、創立以来、生徒に範を示し、生徒のやる気を引きだし、やり切らせてきた先輩諸氏の努力と、教師の指導を素直な気持ちで受け止め、ひたむきに頑張る生徒の努力によるものである。指導していく教師の側も、いつしか生徒の姿に引込まれ、指導に熱が入るといったように、双方が影響し合っていく。

平成17年度からは、海津北高校は統合によってぎふ総合型選択制高校として海津明誠高校の名で新たなスタートを切ることになっている。情報処理科は今後も存続していくことになるので、今日まで築きあげられたものを守り、そして発展させていくために、指導内容や指導方法についてさらなる工夫を重ねていかなければならない。